

公益財団法人 日本バレーボール協会
第5期・2014年度事業計画
(2014年4月1日～2015年3月31日)

1. 事業方針

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、ボータレス化、情報化、少子高齢化など急激な環境変化の中で、バレーボール競技の普及および振興を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで国民の心身の健全な育成、発達、維持および人間性の向上に寄与し、豊かな社会の形成に貢献することが目的である。

2013年11月に開催した各大陸のチャンピオンが戦う、ワールドグランドチャンピオンズカップでは、全日本女子チームがロンドンオリンピックに続き銅メダルを獲得した。更に、次世代を担う若い選手達も、6月にチェコで開催された第17回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）において第3回大会以来の銀メダルを獲得、7月にロシアで開催された第27回ユニバーシアード競技大会では男子チームが銅メダルを獲得、10月にメキシコで開催された第1回世界U-23女子大会において銅メダルを獲得するなど、目覚ましい成果を挙げ、日本国民に夢や勇気、感動をお届けすることができた。その勢いを更に加速させ、全日本男子チーム、ビーチバレーボールを含め、バレーボール界全体の活性化に貢献する。

本年を本会の基盤強化の年と位置づけ、バレーボール界の発展に向け下記重点課題に関し全組織を挙げて取り組む。

本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

■育成強化

「すべての道が2020東京オリンピックに通じる」ことを念頭に

1. 中長期を見据え一貫した選手強化体制を確立し、2020年を念頭に置いた強化計画に全力で取り組む
2. 指導者の資質向上と指導カリキュラムの刷新により、コート上で考えプレーできる選手を育成する
3. バレーボール界における暴力・体罰の根絶を図る
4. ビーチバレーボール競技会の整理統合と運営、選手の発掘・育成・強化に全力をあげる

■組織の強化

1. 迅速な意思決定のため、組織強化、情報収集、人材登用を行っていく
2. 経費削減とプロモーション強化による収入増を図り、財務基盤を強化する
3. 本会加盟団体との情報共有、意思疎通を図っていく
4. 各方面の意見を事業運営に反映させるため、理事会に参加する運営委員をおく

■国際力の強化

1. 国際バレーボール連盟（以下、「FIVB」という。）およびアジアバレーボール連盟（以下、「AVC」という。）への本会の参画・連携を更に強化する
2. バレーボールの価値を創造し、世界における日本バレーボールのプレゼンスを向上するための事業を効果的に推進する

2. 事業内容

（1）競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度最大の目標として男子はワールドリーグファイナル進出とアジア大会優勝、女子は世界選手権でのメダル獲得、およびワールドグランプリ優勝を目標として選手強化合宿を行う。

※男子：国内合宿・味の素ナショナルトレーニングセンター（以下、ANTC という。）を主会場として、50～60日間実施。

海外合宿・南米ほかで20日間実施。

※女子：国内合宿・ANTCを中心に80～90日間実施。

注）シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム。

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

2015年度に開催されるユニバーシアード大会（2年に1回開催）、また、女子はアジア東部地区大会でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

※男子：国内合宿・ANTCほかで30日間程度実施。

※女子：国内合宿・ANTCほかで20日間程度実施。

注）ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成される日本代表チーム。

3) TOKYO2020(仮称)男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるアジア選手権（2年に1回開催）でのメダル獲得、そして

2015 年度の世界選手権出場権を目標に強化合宿を行う。

※男子：国内合宿・ANTC ほかで 25 日間程度実施。

海外合宿・南米にて 7 日間実施。

※女子：国内合宿・ANTC を中心に 15 日間実施。

海外合宿・

4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるアジア選手権（2 年に 1 回開催）でのメダル獲得、そして 2015 年度の世界選手権出場権を目標に強化合宿を行う。

※男子：国内合宿・ANTC ほかで 30 日間程度実施。

※女子：国内合宿・ANTC を中心に 20 日間実施。

注)ユースチームとは男子が 1995 年 1 月 1 日以降に、女子が 1996 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

5) ビーチバレーボール日本代表選手強化合宿

FIVB ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施する。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生長身選手発掘、全国選抜中学生強化合宿事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行う。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣する。

4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行う。

5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行う。

6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施する。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

1) シニア日本代表チーム

※男子：ワールドリーグ・2nd グループ（開催国：アルゼンチン・ドイツ・

フランス・日本、開催期間：5/23～7/20)

第 17 回アジア競技大会 (中国、9/19～10/4)

※女子：モントルーバレーマスターズ (スイス、5/27～6/1)

ワールドグランプリ (アメリカ、中国、日本、8/1～8/24)

世界選手権 (イタリア、9/23～10/12)

2) ユニバーシアード日本代表チーム

※男子：2014 MBC Cup International University Men's Volleyball Tournament
(韓国、8月上旬 調整中)

※女子：アジア東部地区大会 (香港、7/2～7/6)

3) TOKYO2020 日本代表チーム

※男子：第 17 回ジュニア男子アジア選手権 (バーレーン、10/17～10/25)

第 4 回 AVC カップ男子大会 (カザフスタン、8/18～8/24)

※女子：第 17 回ジュニア女子アジア選手権 (チャイニーズ・タイペイ、
10/17～10/25)

第 4 回 AVC カップ女子大会 (上海、9/8～14)

第 17 回アジア競技大会 (中国、9/19～10/4)

4) ユース日本代表チーム

※男子：第 10 回ユース男子アジア選手権 (スリランカ、9/5～9/13)

※女子：第 10 回ユース女子アジア選手権 (タイ、10/11～10/19)

5) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

・ワールドツアー (世界各地で4月～12月まで開催) 10～14 大会に派遣

・第 17 回アジア競技大会 (韓国、9/20～9/29)

6) ビーチバレーボールジュニアクラス男女日本代表チーム

・第 2 回ユースオリンピック競技大会 (中国、8/16～8/28)

・ビーチバレーボール U21 世界選手権大会 (キプロス、7/22～7/27)

・アジアビーチゲームズ (タイ、11/14～23)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB ワールドグランプリ 2014

FIVB は女子バレーボールの発展を目的として、アジアを中心に世界各地で本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、昨年引き続き決勝ラウンドを FIVB と協力して開催する。

開催期間：8月20日～8月24日

試合数 : 計 15 試合 (1 日 3 試合×5 日)

参加国 : 6 チーム (選手団 160 人、競技役員 22 人、計 182 人が来日予定)

※28 チーム中

2) FIVB ワールドリーグ 2014

FIVB は男子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、インターコンチネンタル・ラウンド全 6 週のうちホーム 3 週を FIVB と協力して開催する。

開催期間 : 6 月 14-15 日、6 月 21-22 日、6 月 28-29 日

試合数 : 計 6 試合 (1 日 1 試合×2 日×3 週)

参加国 : 日本、アルゼンチン、ドイツ、フランス

開催都市 : パークアリーナ小牧 (対アルゼンチン)

島津アリーナ京都 (対フランス)

越谷市立総合体育館 (対ドイツ) の 3 都市。

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員ほかを派遣する。

国際審判員候補養成講習会、国際大会審判統括役員講習会を開催する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会 (NF) との友好を結び、連携強化を図る。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会 (バレーボール教室) 開催事業

1) バレーボールをやってみよう～V リーグ選手と一緒にバレーボール教室

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、V リーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、全国 10 会場で実施する。

(参加者見込数・2,500 名) (開催地については調整中)

2) 全国小中学生一貫バレーボール教室

小中合同のバレーボール教室を開催する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図るものである。全国3会場で実施する。(参加者見込数・720名)

(開催地については調整中)

3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業

幼児期にソフトバレーボールを通してスポーツの楽しさを伝える環境作りを行うとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開する。本事業は全国9ブロック単位で実施する。

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催する。

1) 全国小学生バレーボール指導者研修会 (参加者見込数・4,800名)

本会では、小学生の指導者を対象として第一次・第二次講習会を毎年各地で開催しているが、平成24年度より第三次講習会を併せて17都道府県で実施する。

岡山県、埼玉県、鹿児島県、岩手県、青森県、奈良県、熊本県、島根県、栃木県、宮城県、長野県、北海道、和歌山県、宮崎県、茨城県、広島県、兵庫県

2) 全国中学生バレーボール指導者研修会

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を毎年各地で開催しているが、本年度は10都道府県で実施する。(参加者見込数・450名)

北海道、青森県、千葉県、東京都、新潟県、岐阜県、和歌山県、岡山県、愛媛県、沖縄県

3) 全国小学校ソフトバレー授業支援事業

平成23年度より「ソフトバレーボール」の小学校体育科教材完全実施化に伴う支援事業を行っているが、これに資するため、小学校教員を対象としたネット型ボール運動「ソフトバレーボール」の冊子を作成するとともに、当該研修会を開催する。本事業は全国9ブロック単位で実施する。

4) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国20都道府県で開催する。

(参加者見込数・800名)

5) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に大阪府ほかで開催する。(参加者見込数・800名)

6) ビーチバレーボール指導者講習会

ビーチバレーボール指導者を対象に、北海道・茨城で開催する。(参加者見込数・70名)

7) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員・バレーボール専門教

科認定講習会

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催する。

(参加者見込数・330名)

8) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を東京都・大阪府で開催する。(参加者見込数・50名)

9) ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮する事態になっており、バレーボールの将来を考えると、緊急且つ最大の課題となっている。特に小学生、中学生が減少している。その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられる。この課題に取り組むため本会としては横断的・総合的に対処する必要がある。本会ではこの取り組みを“ゴールドプラン”と称することとし、その中核となるプロジェクトチームを設立してこの課題に対して組織全体で取り組む。

③審判員等養成事業

競技会(試合)における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催する。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
全国ビーチバレーボール審判講習会	開催日調整中	2開催(会場は調整中)	60名
全国ラインジャッジ・クリニック	26.5(予定)	大阪府	60名
全国6人制審判講習会	27.03.22	東京都	300名
全国9人制審判講習会	27.03.29	大阪府	250名
ブロックA級審判員講習会	26.04.01~08.31	全国各ブロック	950名
技術統計上級判定員認定講習会 スキルアップ講習会	開催日調整中	会場調整中	30名
競技会事前講習会	26.06~26.10	国内競技会開催地	340名
A級審判員研修会(6人制)	26.12(予定)	東京都・大阪府	110名
A級審判員研修会(9人制)	27.01.16~18 27.01.23~25	京都府 大阪府	50名 50名

*参加者は見込数

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行う。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー

ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行う。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行う。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 25 年までの 63 年間、日本国内最高のチームに授与され、また平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な大会に生まれ変わったが、本年はその 7 回目として以下の日程で実施する。

都道府県ラウンド：平成 26 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(913 チーム・16,434 名参加見込)

ブロックラウンド：平成 26 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(203 チーム・3,654 名参加見込)

ファイナルラウンド：平成 26 年 12 月 10 日～14 日（1 回戦～決勝）東京
(48 チーム・864 名参加見込)

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

都道府県大会 ：平成 25 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(2,795 チーム・33,540 名参加見込)
(参考・都道府県内予選を含めると参加は約 7,400 チーム)

全国大会 ：平成 25 年 8 月 13 日～16 日 東京体育館ほか
(都道府県代表 147 チーム・1,764 名参加見込)

なお、本年より男女混合チームを加えることとなり例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）で教育活動を行う。

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年は以下の日程で実施する。

開催期間：平成 26 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪市中央体育館ほか（96 チーム・1,440 名参加見込）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年は以下の日程で実施する。

開催期間：平成 27 年 1 月 5 日～7 日（1 回戦～準々決勝）

会 場：東京体育館

開催期間：平成 27 年 1 月 10 日～11 日（準決勝・決勝）

会 場：東京体育館（104 チーム・1,872 名参加見込）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施する。

秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

開催期間：平成 26 年 12 月 1 日～6 日

会 場：大阪市中央体育館ほか

（64 チーム・1,152 名参加見込）

秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

開催期間：平成 26 年 12 月 1 日～7 日

会 場：大田区総合体育館ほか

（120 チーム・2,160 名参加見込）

⑥JVA ビーチバレーボール・シリーズ A

日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール競技確立の一環として、そのトップカテゴリーに位置づける競技大会「JVA ビーチバレーボール・シリーズ A」を 2014 年度より開催する。

開催期間：平成 26 年 6 月～10 月

会 場：南淡路（兵庫）、大洗（茨城）、坂（広島）、藤沢（ジャパンと統合・神奈川）、淡輪（レディースと統合・大阪）、その他 3~5 都市（調整中）

（延べ 240 チーム・480 名参加見込）

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施する。

大会名等	実施期間	会場	参加チーム数・人数(見込)
全日本⑨実業団女子選手権大会	26.07.11～14	新潟県長岡市	62チーム・930人
全国ママさん大会(⑨)	調整中	調整中	48チーム・720人
全日本⑨実業団男子選手権大会	26.07.25～28	愛媛県松山市	67チーム・1,005人
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	26.08.07～10	大阪府大阪市	62チーム・930人
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	26.08.08～11	鹿児島県鹿児島市	67チーム・1,005人
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	26.11.07～10	秋田県大館・北秋田市	96チーム・1,440人
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	26.11.14～17	広島県広島市	96チーム・1,440人
全日本⑨総合女子選手権大会	27.01.24～26	大阪府大阪市	52チーム・780人
全日本⑨総合男子選手権大会	27.01.16～19	京都府京都市	60チーム・900人
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	26.05.01～06	大阪府大阪市	32チーム・576人
全日本クラブカップ男子選手権大会	26.08.14～17	静岡県袋井市・浜松市	67チーム・1,139人
全日本クラブカップ女子選手権大会	26.07.31～08.03	群馬県太田市	59チーム・1,003人
全国ヤングクラブ優勝大会	26.09.20～21	大阪府門真市・大阪市	98チーム・1,680人
以上⑨は9人制大会、その他は6人制大会			
ビーチバレージャパン	26.08.15～17	神奈川県藤沢市	56チーム・112人
ビーチバレージャパンレディーズ	26.08.21～24	大阪府泉南郡岬町	62チーム・124人
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	26.08.08～10	神愛媛県伊予市	80チーム・160人
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	26.08.08～11	大阪府阪南市	52チーム・156人
全日本ビーチバレージュニア女子選手権大会	26.08.07～10	愛媛県伊予市	48チーム・144人
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	26.08.08～10	千葉県船橋市	48チーム・432人
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	26.10.10～12	北海道釧路市	54チーム・486人
全国ヴィンテージ8'S交流大会	26.11.07～09	沖縄県石垣市	40チーム・600人

⑧本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程：平成26年10月18日～21日 開催地：長崎県諫早市ほか

2) 日本スポーツマスターズ2014

日程：平成26年9月20日～23日 開催地：埼玉県さいたま市

⑨本会、公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程：平成26年8月2日～8月6日 開催地：東京都渋谷区ほか

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程：平成26年8月7日～8月11日 開催地：東京都渋谷区ほか

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程：平成26年8月5日～9日 開催地：神奈川県平塚市

⑩本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会(男女大会)

日程：平成26年8月22日～25日 開催地：高知県高知市・南国市

(5) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値向上のために適切な

プロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動する。

また、本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行うとともに、本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努める。

(6) バレーボール用品・用具の公認・推薦及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

国際大会のバレーボール観戦者においては、観戦を通して国民の一体感や個人のマナーなど、豊かな人間性を育むことを目的に、応援グッズほか本会公認物品の販売を行う。

(7) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(8) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構（以下「Vリーグ機構」という。）が主催するVリーグについて、一部大会の開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催する。

同時に、Vリーグ機構が全国各地で開催する大会の競技会運営、適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員、技術統計判定員ほかを派遣、Vリーグの開催支援事業を行う。

(9) 地域グループ育成・強化事業

①本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行う。加盟団体の新公益法人制度に伴う移行作業及び法人化準備作業に向け各種の支援を行う。

②バレーボールに関する地域グループの育成・強化事業（AVC 代行業業）

- 1) AVC 加盟国のうち普及度の低い約 49 ヶ国・地域を対象とする普及支援活動の受託代行。(バレーボールに携わる関係者への講習会や研修合宿の実施、対象国内競技会運営支援、国際大会への参加準備、ナショナルチーム活動の支援など)
- 2) AVC のアジアにおけるマーケティング活動の受託・代行
(協賛企業の発掘、協賛金、スポンサー料、放映権料などの獲得。2014 年度は、立ち上げ準備を行う。)

(10) その他

- ①公益財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業に対して積極的に協力する。
- ②公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) と東京都が設置した、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に対して積極的に協力する。
- ③「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に定められた公益認定の基準を順守するとともに、法人の透明性やガバナンスの確立に注力する。
- ④バレーボール愛好者はもとより青少年や社会人、熟年世代にスポーツを「する」「観る」「支える」楽しさや素晴らしさを伝える広報活動を充実させる。

以上